



第⁹²号

2011 / 10

MOMO 2号導入と交通基本法



だからいま多くの鉄道会社では安全投資の資金が無く、各市町村の支援を受けて路盤の整備や車両の購入を行っているのが現状である。

本格的高齢化時代を迎えつつある今、交通の70%を自動車交通に頼っている地方都市では、運転免許返上をせざるを得ないお年寄りが増加し、一方で公共交通が崩壊しているため買物難民が増加している。実際には買物だけでなく、医療難民化もしているのが実情だ。

日々の食料品の買い物、通院ができることは基本的な人権にかかわる問題である。そこで今月国会において「交通基本法」の審議入りが予定されており、成立すればさらに時代に合った交通基本計画が策定され、予算も確保されていく。地方都市交通については電車もバスも公設民営の方向に向かい、たとえば岡山市内の路面電車も路盤への安全投資や車輛購入は公の仕事になっていくであろう。そうでなければ完全バリアフリー化に180年かかってしまうのだから。MOMO2号を契機に、低床のバスや電車がどこでも走っている町になればいいと思う。

バリアフリーの超低床路面電車 MOMO が導入されたのは2002年、今月ようやく MOMO2号が導入される。価格は2億8000万円。車軸がない低床台車はハイテクの塊で、ドイツ製である。岡電には22輛の車輛があるが、このペースでは全低床化には180年かかってしまい、本格的高齢化時代には全く間に合わない。

今日の地方のバス会社、電車会社の現状である。地方では鉄道事業は少子化と不景気のおかげで儲からなくなっている。

鉄道会社は路線の安全を自分で保守して確保しなければならない。道路を走るバスとは根本的に違うところだ。

導入は今回1/3の国の補助を受けて行うが、もともと岡電の運賃収入は、乗客が毎日1万人弱、100円平均だから、3億円ほどしかない。独力では電車もバスも買えなくなっているというのが



ビアガー電運転終了

毎年恒例、岡山の夏の風物詩「MOMO de ビアガー電」無事に今年の運転を終了しました。運転最終日にも大勢の方にご乗車いただき、岡山の街のナイトクルーズを堪能していただきました。10月からはビアガー電にかわってワイン電車の運転を開始します。運転開始日は10月14日。皆様お誘い合わせの上、ご乗車ください。

MOMO 2

10月15日15時より

運行開始

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索



NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA

詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで